東京薬科大学新聞

発行所
東京薬科大学
新聞会
責任者
村野哲雄

七月号

どうなる過去問

二十二年間の歴史に終止符？

先日「三年A→前期資料より販売中止、三年B→前期資料は販売中止」との見出しのついたビラが配られた。内容はコンピューター研究会（以後コン研と略）が過去問販売のために部室棟の会議室の使用許可を願い出たところ、それが前執行委員長に拒否されてしまったことに対する販売側からの抗議文であった。

過去問は二十二年もの間、部室棟の会議室を使って販売されてきたそうである。とすると、何故執行委員会（以後執行と略）は、突然会議室の使用願いを拒否したのだろうか。

それには当然理由がある。執行によると、第一に今まで自由に出入りできた会議室には今年から鍵がかけられ、使用するためにはその都度、執行委員会室に行って使用目的を告げた上で、鍵を借りなくてはならなくなったということだ。利用するにはそれなりの理由が必要というわけである。鍵をつけた理由は本来会議室の椅子の盗難を防ぐためであるが、今回の場合は過去問販売のために会議室を使用されると、約一週間も会議室が占拠されてしまい、他の委員会等で会議室を使いたくても使えなくなるからである。

第二に、いわゆる「学則」に違反している。「学校法人東京薬科大学施設使用規格」第三条に「施設は、次の行為を行う場合には、これの使用を承認しない」としてその一に「もっぱら営利を目的として事業を行い、その他営利事業を援助すること」とある。執行は過去問販売はこの「営利」だとして、会議室の使用を認めないと言っているのである。

だがいくら今まで会議室が自由に使えたとはいえ、執行委員の中にも過去問を買っていた人はいたはずである。今回の執行の主張では、執行は学則に違反していると知っていながら今までそれを黙認していたと言われても仕方ないであろう。また、新聞会では今まで述べてきたことを執行のコン研は前執行委員長の独断であると言っている。真実は定かではない。

一方、過去問製作者である堀端氏はこの過去問販売を営利ではないと主張しているようである。つまり過去問販売による収入は学生自治会に還元していると言う。確かにこの収入によって学生自治会にコンピューターの寄贈等が何回かなされたようである。更にその残金を次の過去問製作費に回しているとすれば、結局は収入がないから営利であるとは言えなくなる。こういったことを堀端氏は執行側に証明しないのだろうか。

今回の最も重要な問題は、過去問販売が営利なのかどうかである。過去問販売による利益がどれだけであるのか明らかにされていないので何とも言えないところだが、堀端氏は学生に過去問販売が営利目的であると思われてまで通信販売によって過去問販売を続けたくないようである。もし本当に無収入であるのならこれも納得できる。

では過去問の販売は今後いっさいできないのだろうか。結局のところ会議室、もっと広くいえば大学構内で金銭を扱わなければまるく収まるのではないかと思われるが、それにはやはり通信販売がよい手段であろう。しかし昨年これを行ったところ、平山近辺に住む人の中には盗難にあった人もいるようである。それなら代金は先に郵便局で払い込んで品物はコン研の部室等で領収証と引き替えるという方法もある。これなら通信販売の時に起こったような郵便物が盗難にあう心配がない。これらの方法であれば執行側も認めている。しかしこれは形が変わっただけで結局は同じことをしているのではないかと思う人もいるだろう。実際これは学則の解釈の仕方で変わってしまうややこしい問題である。また通信販売では手数料がかかる、手続きが面倒だ等のデメリットがあるのも事実である。

ところで今回の事態に対し大学側は「学内で物品販売を行うことが問題であって過去問自体が問題なのではない。会議室については、部室棟は執行の管理になっているので大学側には直接関係がない」と言っている。学則にのっとった回答であった。

かなりの学生が利用している過去問が販売中止になるとなれば、試験結果にどんな影響が出るだろうか。前期試験の結果が良好であれば次回から、二・三年男子部全体の過去問の販売も停止されるようである。過去問を買う・買わないは個人の自由である。今回の問題には皆さんも賛否両論あると思うが、今後の情勢に注目していくしかない。

昔を訪れる

江戸東京たてもの園

JR武蔵小金井駅から小金井街道沿いに北へ歩いていくと、緑に包まれた都立小金井公園が見えてくる。その中に、今春オープンしたばかりの江戸東京博物館分館・江戸東京たてもの園がある。

寝殿造りを模した正面出入口から入ってすぐ左手には、東京の建物や町づくりの歴史を中心とした展示コーナー・映像コーナーがある。さらに奥へ進んでいくと、古代の石器・土器から始まって近代の養蚕の道具まで、様々な資料が展示されている。これらは年代順に展示されているので、生活文化の変遷を容易に理解することができる。

屋外に出ると、茅ぶき屋根の民家や、居酒屋・醤油屋などの商家、銭湯や交番など、様々な歴史的建造物が移築・復元されている。今は十数棟だけだが、これからも移築・復元を続ける計画で、平成十二年の完成時には約三十五棟になる予定だ。

さて、これらの建物はそのほとんどが実際に建物の中にあがって見学することができる。内部もその当時の道具や商品などが並べられておりできるだけ忠実にその時代を再現している。それ故、目で見て楽しみながら歴史に触れることができるだろう。

さらにお土産コーナーもあり、コマなどの昔ながらのおもちゃだけでなく、なんと紙製の実際に履ける草履まで売っていた。

開館時間は四月から九月までは午前九時半から午後五時半。十月から三月までは午前九時半から午後四時半。観覧料は大人三百円。じっくり見て回ると二、三時間かかるので十分に元がとれるだろう。

学内展

文化部門では、去る六月十六日から二十三日までの一週間、PITにおいて学内展を開催した。参加団体は華道部・写真部・美術部・やきものクラブの四団体であった。

華道部は文字通り部屋に華を添え、写真部は動物を題材にした写真を展示し、美術部・やきものクラブもそれぞれ力作を披露していた。どれを取っても熱意のこもった作品ばかりであった。さらに我々と同じ学生がつくる芸術だから、気楽に見られたのではないだろうか。

日頃、厳しい現実の中に生きなければならない我々であるが、芸術はそんな中で一服の清涼剤にならないであろうか。学内展を機に、芸術評論家気取りで各地の美術展を見てまわるのもいいかもしれない。

合唱団定演

六月十九日の午後六時三十分から水道橋のパリオホールにおいて、東京薬科大学合唱団の第三十七回定期演奏会が行われた。曲目は宗教合唱曲集、他四曲。（小松幸雄、山寺教文両氏指揮）

当日は小雨の降る中を大勢の聴衆が詰めかけた。また他大学の合唱団のメンバーも来聴していた。演奏終了後その一人に感想を伺ったところ、「（東薬の合唱団は）団員数が少ないので聴く前はどのようなものかと思ったが、こちらは女性もいるので曲全体に張りがあってよかった。曲のレパートリーの多さには驚いた」と好評であった。

本学の合唱団は普段あまり練習風景を見かけず、決して目立った存在とは言えない。しかし今回の演奏会では日頃の練習の成果を存分に発揮できたのではなかろうか。

薬味

今、日本語が揺れている。「着れる」「食べれる」などの言い方は、はたして正しい言い方なのだろうか。これらは、いわゆる「ら抜き言葉」と呼ばれるものである。「ら抜き言葉」というのは可能の助動詞「られる」の「ら」が省かれて「着られる」が「着れる」に、「食べられる」が「食べれる」などのような言い方になったものである。しかし実際「ら抜き言葉」は、多くの人が多くの場合に用いており、この言い方が間違っているとは一概には言い切れないようだ◆この他に「私わぁ」「それでぇ」と語尾を伸ばす言い方や「マジ」「ヤバイ」「ウッソー」「そうジャン」「親ナンカはやめろトカ言うワケ」などの言い方がある。これらは、いわゆる「若者言葉」と呼ばれるものである。「若者言葉」は、本来の日本語にはなかった表現である。「親ナンカはやめろトカ言うワケ」の「トカ」は、他に「雑誌トカ読む」「あの友達トカ言ったのよ」のような場合にも用いられている。これらを見ると、助詞の「と」「を」「が」が「トカ」で全て表されているのがわかる。日本人は昔から、曖昧さを好むと言われている。だから今の若者は、こういった習慣の影響を多少なりとも受けているのかもしれない◆「ら抜き言葉」や「若者言葉」は、今後の日本語としてしっかりと根づいてゆくのだろうか。それともこれらに代わる新しい言葉が出てくるのか。いずれにしても、日本語独特の美しさを念頭に置き、今後の日本語のあり方を考え、しっかりと見守っていかねばならない時がやって来たようである。

（愛飢え男は柿食う子）

学生大会は七月七日

平成5年度前期 学生大会議題

1．所信表明
2．駐車場問題
3．図書コーナーの設置について
4．自治委員会
5．新聞会
6．東薬祭運営委員会
7．体育祭実行特別小委員会
8．会議室使用規定について
9．自治会規約見直しについて
10．平成四年度決算報告
11．平成四年度監査結果報告
12．平成五年度予算案

学生大会の議案書の大意は以下の通りである。

一、所信表明
学生自治会の仕事として、学生の要求を実現することは重要ですが、受け入れるべき学生の要求がないのでは自治会活動が活発になりようがありません。皆さん学生の関心と協力を求めるべく努力し、活発な自治会活動にしていきたいと思います。

二、駐車場問題
現在の駐車場は工事の都合でもともとあった場所から一時的に移されたものです。今年度までは無料で確保されていますが、来年度も学生にとって不利にならないようにしたいと考えています。

三、図書コーナーの設置
こかげに図書コーナーが新設されました。貸出期限は一週間。本はアンケートに基づいて選定したいと思います。

四、自治委員会
自治委員会は学生と自治会とをつなぐ委員会として、図書コーナー蔵書の選定（三号議案）など学生の立場に立った活動を広めていきたいと考えています。

五、新聞会
新聞会の役割は、皆さんに「正確な」情報を「正確に」伝えることです。そこで、紙面の充実を図るため、学生課前に「御意見箱」を設置しましたので、積極的に利用してください。

六、東薬祭運営委員会
昨年度まで四日間だった東薬祭期間が今年度から三日間になりました。中夜祭・後夜祭・音楽祭ほか、特別企画を予定しています。
期日＜十一月三日（金）から五日（日）まで＞

七、体育祭実行特別小委員会
今年度の体育祭には、毎年恒例の種目に新種目も加わりより楽しんでいただけると思います。日頃の運動不足を解消する場として、多数の参加をお待ちしています。
期日＜十月二十日（水）＞

八、会議室使用規定
今回、会議室を使用する全団体に対し、一律の使用規定を定めたいと思います。

九、自治会規約見直し
同好会にも決算を提出する義務があるのなら、予算を請求する権利を認めてほしい。具体的には、予算委員会の委員に同好会代表の二名を加えていただきたい。

十、平成四年度決算報告

十一、平成四年度監査報告
各団体の決算報告に不備が多く、自治会からの分配金やその残金がしっかり把握されていません。監査についての説明会を開くなどの対策を施そうと思います。

十二、平成五年度予算案
（以上）

まず二号議案の駐車場問題についてだが、駐車が有料になれば駐車場を使用する学生達にとってはとても「痛い」であろう。また今回は来年度分の権利を獲得するための努力がなされるようだが、工事が終わるまでは毎年この議題が挙がってくることになる。困ったものである。

次に三号議案の図書コーナー設置の件だが、実は昨年度末から既に置かれているのである。今まで知らなかったという人は見に行ってほしい。

最後に六号議案の東薬祭の期日だが、どうやら資金の不足等の理由により三日間に短縮されてしまったようだ。果たして前年度以上の盛り上がりを見せるであろうか？

学生大会は真面目に聞く人は聞く、聞かない人は聞かないのが毎年のパターンになっている。しかし今回はより多くの学生が関心を寄せてくれるようにしてほしい。

大人を演じる

次の五つから連想する言葉は何だろう。①十分に成長した人。（元服または裳着（もぎ）が済み）一人前になった人。成人②考え方・態度が青くさくなく、老成を示しているさま③女房などの頭に立つ人④子どもがだだをこねたりせず、おとなしいさま⑤天然痘。

答えは広辞苑でいう「大人」の定義である。なんだか分かりづらい定義である。皆さんも「大人とは何か」考えたことがあるだろう。一般的に言われるのは満二十歳以上。しかし二十歳未満でも大人じみた人もいるし、二十歳を越えていても大人気げない人もいる。そこで真の大人とは何かを石原壮一郎著「大人養成講座」から探ってみたい。

皆さんがこれを肌で感じるのは就職したときであろう。社会に出たら子持ちの上司・同僚には自慢話のきっかけを与えたいものである。「そういえば課長の家の○○ちゃん今度小学校じゃないですか」という言葉にはすぐにのってくる。その子どもが小学生なら科目の好き嫌い、クラスでの係など話題はきりがない。

聞いている方は子どもの話題に感心しながらうなずくしかない。「うちのは言うことを聞かない」と言うのも実は「自主性がある」ということを自慢したいだけである。

一昔前、大人になりたがらない人を指す「ピーターパン・シンドローム」という言葉がはやった。先ほどの話だけを聞くと確かに大人になることとは嘘つきになることで、よくないことのようである。しかし自分が役者となって演じきりそれを客観的に見てみると成長した自分もよいものではないだろうか。

（津田佳幸）

生協まつり

今年も六月二十二日から二十六日まで、生協まつりが行われた。

始めの三日間は『縁日』が開かれた。雨が降ったのは二日目だけで比較的天気もよくコミプラを中心にたくさんの人だかりができ、大盛況であった。クレープやケーキなどは常に人気が高く、また暑い日にはかき氷売り場に長蛇の列ができていた。普段食べる機会が少ない、ういろうや生八つ橋を売っていた『甘味処葵』も好評だったようだ。

二十六日の『ザ・ビア』も学休日であったが、和やかな雰囲気で行われた。

ひと時のお祭気分を十分に味わえたように思う。

9 4年8月の14日間 中医学体験留学 IN CHINA

《参加者募集》　（現1年生～3年生）
規定・勉強会が週1回昼休みにあります。
・語学力は一切問いません。
費用・15万円の予定。
定員・30人。
説明会：9月29日（水）の予定。詳細は夏休み明けにポスターを掲示します。
「経験は財産なり」
代表者　2年　川瀬 仁礼

編集後記

やっと新聞が出来たと思ったらもうすぐテスト。助けてヤキソバン！（ひかりもの）

Σ人の金で食べる夕食はとてもおいしいと思った。（ゆ）

A私はもはや疲れました。う、試験がいっぱい（渡島）

‡今度はフロッピーが入らなかった。（XAZSA）

〆何もやってないのに図々しくもここに登場！（E）

●これから睡眠不足の時期に突入です。（副）

第一生化学研究室の本多厚先生が六月二十七日に他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

行事予定

七月
七日（水）　学生大会
十五日（木）　前期授業終了
二十一日（水）～二十九日（木）　前期試験

八月
一日（日）　夏期休暇開始
五日（木）～十八日（水）　職員一斉休暇

九月
十四日（火）　夏期休暇終了
十六日（木）　後期授業開始
二十四日（金）
二十七日（月）　後期選択科目履修申請

さて先月号で新聞会カルトQを出しました。問題は今年度の新聞は昨年度とどう変わったかでした。答えは欄外の（1）、（木）、題字「東京薬科大学新聞」、その下の七月号、行間が広がった、薬味が十二文字から十三文字になった、です。